

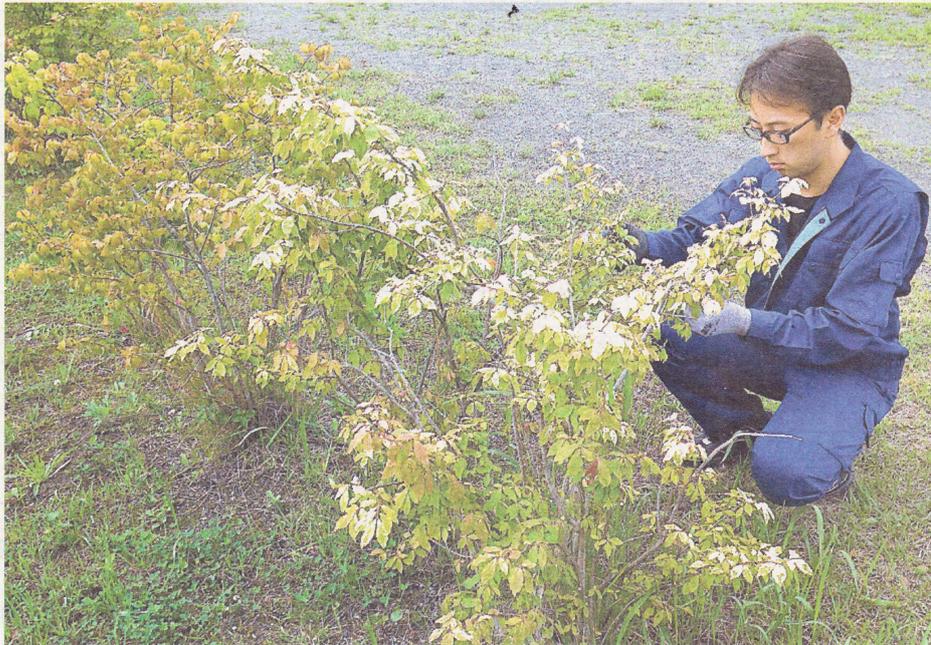
# 津波被災 学校に緑を

津波をかぶり、元気をなくした樹木の様子を見る喜多智晴さん  
—7月、宮城県石巻市

## 富士を拠点にNPO

# 樹木再生、活動拡大へ

東日本大震災で津波被害を受けた土地に花や緑を根付かせる「津波被災小学校のシンボルツリーを守るプロジェクト」が今夏、宮城県石巻市で始まった。活動の中心を担うのは富士市の樹木医の喜多智晴さん(40)。「長年にわたり子どもたちを見守ってきた樹木を守りたい」。秋には富士市を拠点にNPOを設立し、活動の輪の拡大を図る。



喜多さんが初めて石巻市を訪れたのは2012年4月。「一言で表すと荒野」。街から緑が根こそぎなくなった光景に衝撃を受け、今春から家庭樹木のメンテナンスス業を始めた。現地で過ごす時間が長くなるにつれ、教育施設の緑の不足が見過せなくなった。

津波で草花が流されただけでなく、校庭の樹木が弱ったり、全国のボランティアが植樹した苗木が既に枯れてしまったりした様子も目に付いた。津波で土壌の塩分が増え、アルカリ性になったことなどが原因とみられる。知人を通じボランテ

ィアを申し出て5月から、石巻市立鹿妻小と大街道小で校庭の樹木再生をスタートさせた。スタッフとして浜松市南区出身で現地在住の会社員鈴木達也さん(34)も加わり、静岡

言を得ながら土壌分析や除塩に取り組んでいる。鹿妻小では震災後、創立時からある学校木のケヤキに枯れ枝が目立つようになったが、除塩効果で樹勢を取り戻した。大谷友宏校長(54)は「児童のたまり場となる木が元気になってうれしい限り」と声を弾ませる。

さんは「樹木再生には人手も資金も必要だが、現地では全然足りない」とボランティアや善意を募っている。

市駿河区の肥料メーカー「富士見工業」のスタッフは3人だけ。喜多

平成25年(2013年)8月30日(金曜日)